

## 令和3年度 第1回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

### 1. 日時

令和3年6月15日（火）18：45～19：45

※（桐生市環境先進都市将来構想推進協議会委員委嘱状交付式終了後開催）

### 2. 場所

桐生市役所 6階 605会議室

### 3. 出席者

#### （1）委員（13人）

会 長：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕  
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長〕  
委 員：西菌 大実〔群馬大学共同教育学部 教授〕  
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕  
藤生 五郎〔桐生商工会議所 副会頭〕  
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕  
吉原 裕次〔新田みどり農業協同組合 総務企画本部本部長〕  
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕  
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕  
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕  
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕  
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕  
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長〕

#### （2）事務局（5人）

大木市民生活部長  
高橋環境課長  
生方環境都市推進係長  
高橋主任  
片貝主事

### 4. 議題

- （1）ワーキンググループについて
- （2）その他

## 5. 議事要旨等

### (1) 会長及び副会長の選出

- 会長及び副会長の選出については、会長を天谷委員・副会長を近藤委員に推薦され、委員の全員の賛同を得る。

### (2) ワーキンググループについて

- ゆっくりズムのまち桐生のメインとなる『交通まちづくり』『ライフスタイル』の2つをテーマにした2グループを考える。
- 会長・副会長で素案及びメンバー候補を決める。

### (3) その他

- 住宅リフォーム補助金の執行方法の改善について  
住宅リフォーム補助金は需要が高いため申請受付がすぐに終わってしまう。時期を分けて申請受付を行えるよう検討して欲しい。

### (4) 次回日程及び委員謝金についてのお知らせ等について

- 第2回協議会の日程についてお知らせ：令和3年10月予定
- 委員謝金について、協議会開催後、出席に応じ謝金を支払う旨のお知らせ

## 6. 委員意見（質疑応答）

### 【議題】 ワーキンググループについて

#### 【委員】

ワーキンググループの概念として、ゆっくりズムまちの構想は、環境面にかぎらない価値観の転換であると理解する。そのため、当協議会ではなくもっと上位の中での取り組みであると考え。ワーキンググループ開催が委員中心となるのかなどイメージがわからない。これから詳細を考えないといけない。宝田先生のワーキンググループのイメージは、宣言時の趣旨内容よりそれぞれテーマがあり、提案された6項目については、代表的なもの、シンボリックなものを表していると考え。その裏側にある真意が何かをつきつめないと価値観の転換に繋がらないと感じる。

#### 【会長】

価値観の転換にどうつなげていくかが課題である。

これまで当協議会は市の政策に対する意見を言う場、議論のみであった。その後、宝田先生よりゆっくりズムを提案いただき、協議会が主体となり動けるようになった。今後は、具体的に動ける仕組みづくりが重要であると考え。ワーキンググループはどのようなものか。どうやって実施していくのか。テーマを決めてワーキンググループを実施するのかを議論したい。

#### 【委員】

ワーキンググループを作るにあたっては、当協議会委員だけでなく、一般の人を入れると良いと考える。責任者は協議会の委員でも良いと思う。若者や女性を入れると良いと思う。柔軟な考えや豊かなアイデアを持っているため。上毛電鉄を利用した他市へのサイクリングはかつて実施したことがある。そのころの経験を活かしてはどうか。MAYUも現在活用されている。過去の経験活かしながら若い人を入れてワーキンググループを実施すると良いと思う。

#### 【会長】

ワーキンググループについて柔軟な意見を取り入れていけるように、外部の人で得意な分野の人・商工会議所等ネットワークを使って取り入れていければと思う。

#### 【委員】

まだ漠然としている。ワーキンググループをどのようにステップを踏んで実行していくのか。グループをうまく誘導していけるように準備していく必要がある。

#### 【委員】

ワーキンググループの募集の仕方について、若者や女性をどういうふうに募集するか。具体的に活動を何回するか、日程等を決めていけば集めやすいと思う。宝田先生の6項目の意見や他の委員意見も含め、結果2～3項目で実施できればと考える。

【副会長】

横断歩道での一時停止については、桐生法人会が4月から啓発活動を実施している。

他に活動を実施している情報あれば報告いただきたい。6項目あるが、既に活動がなされているものは情報発信だけの活動で良いのではと考える。ゾーン19について、最初から19キロではハードルが高いので、商店街をゾーン30くらいでできないか。

【委員】

現在本町1, 2丁目の重伝建の工事が行われており、工事終わるとおのずとゾーン30になると思われる。その後を踏まえ3, 4, 5丁目も延伸していくのかと思う。自然と商店街がゾーン30になると推測する。今の段階で、単発で行うには難しいと思われる。

ゾーン19はMAYUとセットで行う方が効果的。現状としては、意識の啓発から進めていけば良いと考える。

【会長】

市民の生活に直結することでもあるので、実施するにあたっては、まずは商店街と連携したイベントを定期的実施し、また、何年か計画してゾーン30になるような取り組みを実施していくなどマイルストーンを踏まえた推進が考えられる。

【委員】

何のためにやるのか。コンパクトシティなどまちづくりの観点から考えなくてはならないと推測する。まちづくりの中にゾーン30があるのではないかと思う。

何も関連しないでこれだけやるということは効果が考えづらい。

【会長】

ゆっくりズム全体を通しての考えで、ゆっくりズムを進めるうえでの宝田先生の趣旨説明にある環境に良いもまちづくりが活性化し、持続可能性のあるものが何かをとらえていくことが重要と考える。

【委員】

ゆっくりズム宣言は、環境先進都市の観点から考えると、最終的に桐生からのエネルギーなど地域からの付加価値流失をふせぎ、また、CO2の発生抑制が狙いとなるのではと考える。最終的に、桐生地域に価値が残り、幸福感が生まれると考える。6項目について、2, 4番は今現在の車の使い方などの考えが当てはまると思う。また、1, 3番は今使っている車からの転換が当てはまる。5, 6番は、エネルギーの新しい使い方が当てはまる。会長趣旨説明を再度よく読んで裏に隠れている真意を今一度確かめる必要があると感じる。ゾーン30は30キロでは走ることはない。ワーキンググループをやるのが目的になってしまう。

【会 長】

趣旨説明の後ろにあるものを今一度考えていく。もう少し絞ったテーマでないと市民への合意も難しいと思う。交通のありかたの転換、生活のライフスタイルの転換、ゆっくりズムにあった街づくりの3つくらい絞ってはどうかと思う。

【委 員】

検討項目は3つぐらいが良いと思う。6つ全部だと難しいし1つだと特化してしまう。

それぞれ連携していることが良いと思う。宣言文の最初にあるとおりスローモビリティを一番に置いてきている。今現在の車を否定するのではなく、MAYU・自転車・徒歩と車をどう共存させていくかがポイントと考える。旧桐生地区は自転車の使いやすい地域である。車からの転換を促すことで、最終的に車からのCO2を減らす。車・自転車・ナローモビリティ等がうまく共存できると思う。

例えば、黒保根地区への移動に、渡良瀬溪谷鉄道に自転車を載せられるようにしてはどうか。とても魅力的なサイクリングコースもある。車中心の生活からスローモビリティのまちにする1つのきっかけになると思う。いろいろなスロースタイルの形になると思う。それぞれの方向性が連携すると良いと思う。

【会 長】

これまでの意見を集約し、ゆっくりズムのまちのイメージとして、MAYU・自転車・まちづくりの構想を考える交通まちづくりのグループと、ゆっくりズムにあう豊かな生活・ライフスタイルを考えるグループが考えられる。2つのグループで議論し、今ある市民グループと繋がり検討をはじめ、11月頃までに桐生ではどのようなことができるかをまとめる。その後、具体的な活動として実施していく。グループについては、委員の中から何人か協力をお願いしたい。メンバー決めについては会長 副会長の一任で決めさせていただきたい。

【委 員】

林業サイドのゆっくりズムの活動として、森の利用の観点より、木育など子どもが生まれたら積み木をプレゼントするなどライフスタイルの中での取り組みがあると思う。

【委 員】

桐生に人が集まり、若い人が移り住んでくれるような構想を考えていきたい。今ある学校を集約すると良いと考える。例えば、北小学校は重伝建地区にあるため、そこを中心とし、木造校舎に建て替えし、障害児も受け入れる。そのことにより、子どもの気持ちが豊かになると同時に親の気持ちにも安心感が生まれゆとりが発生すると思う。桐生の森林の中にある木造校舎があることで自信につながると思う。子どもを育てたい親が住みたいまちづくりを考える。例えば英語教育は、子供のころから英語がしゃべれるような学習体制にすることでよそから人が来ると思う。また、桐生女子高等学校跡地において、森林火災等で傷ついた動物をケアする場所とすることで、そこで働く場ができ、遠くで働いていた人が近くで働くことができる。ライフスタイルの変換としてのゆっくりズムができると思

える。みんなの心にゆとりができる仕組みづくりが重要と思う。いい循環が必要であり、日々の生活の循環を変えることが良いと思う。桐生にはいいポテンシャルがあると思う。

**【委員】**

市民は宣言の意味を知らないと思う。市民へもっと PR して欲しい。

市民グループへの呼びかけとして、商工会・商連にも青年部があるので、若い人はやる気に満ちているため呼びかけると協力してもらいやすい。なお、商工会議所青年部では、10月17日に40周年記念企画を実施する予定となる。桐生タイムスでは40周年に合わせ桐生のこれからを担う40人にスポットを当て、11月まで連載される。

**【委員】**

従来の将来構想とゆっくりズムが連携をとれるように調整が必要と考える。

**【会長】**

ワーキンググループを進めるにあたっては、市においても環境課以外の課にかかる部分も出てくるため、また、ゆっくりズムは高い理念でもあるため全庁的に協力して欲しい。

**【委員】**

桐生市の各地域、旧桐生・黒保根町・新里町にはそれぞれの良さがある。中心地に目が向けられているが、それぞれの良さがある。例えば、小学生の人数が減っていることについて、黒保根地区では様々な活動を通して地域ぐるみで見守っている。広い意味で良い桐生であることをアピールできると良いと考える。

**【会長】**

それぞれの良いところを見て、桐生の良さを知ってもらい、そこから桐生に移住したいと思う人も出てくると感じる。地域が連携することでゆっくりズムにつながると感じる。

**【会長】**

本日の意見を受け、ワーキンググループの素案を副会長と相談し、決まり次第事務局を通して連絡したい。

**【会長】**

国の過疎地指定が4月より変わり、関東地方の人口10万人以上の都市で過疎地になったのは桐生市だけである。しかし、1人あたりの土地は広いし良いこともある。ゆっくりした生活ができるので最先端であると思う。逆にアピールできればと考える。

— 以上 —